

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200946		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	小山田グループホーム		
所在地	四日市市山田町5516-1		
自己評価作成日	平成23年6月16日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470200946&SCD=320&PCD=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 23 年 7 月 5 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然が豊かな環境で快適に暮らしていただき、利用者個々の性格を尊重して、残存機能維持に努め健康に過ごせるよう支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

病院だけでなく各種介護施設を持つ法人であり、その施設群の奥まったところにグループホームがある。これら施設群だけで一つの地域を作り出しており、利用者家族は、そのバックアップ(懐の深さ)に強い安心感を抱くことが出来る。比較のお元気な利用者が多く、職員と一緒に食材の買出しや食事の準備を積極的に行っており、ゆったりとしたグループホーム本来の安心した生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昼礼や職員の休憩などに合わせスタッフとのコミュニケーションを取るようになっている。	「利用者本人が出来る限り自律した生活を送れるように…」という理念を念頭に、本人・家族の気持ちを十分に理解できるよう、管理者、職員共に勉強会をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人内の敷地内で手紙の出し入れや残飯出し・ゴミだし等は行っている。	「地域」として小山田地区と法人(青山理会)の施設群とを対象としている。年に数回ある地域を巻き込んだ法人のお祭りに、グループホームとしても参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470200946&SCD=320&PCD=24	敷地内の入所施設職員。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員が地域の理解をはかるために必要な知識をつめるための会議とした。	2ヶ月に1回の頻度で開催されているが、市町担当者や地域の関係者の出席がない。	市町をはじめ幅広い意見を事業所のサービス向上に活かすという、運営推進会議の主旨を十分に理解され、事業所内外の幅広いメンバーでの意見交換を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームとしては出来ていない。	ユニットリーダーとしての市町との交流は少ないが、法人全体の事務局や管理者は連携が密である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については現在検討中 身体拘束を正しく理解し利用者が快適に過ごせる様支援している。	グループホームの横に駐車場があり、車の出入りも多いので、玄関の施錠が必要な時間帯もある。どのように時間帯を短くするかについて、検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や虐待とは判断しにくいようなことが発覚した場合などは速やかにミーティングの議題として話し合うようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や虐待とは判断しにくいようなことが発覚した場合などは速やかにミーティングの議題として話し合うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内に相談窓口が設置されていることや、直接聞くことができるように面会があればその都度挨拶だけではなく、時間を設けて意見などが話せる時間を取っている。	「小山田グループホームだより」を家族向けに発行し、家族とのコミュニケーションアップを図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昼礼や職員の休憩などに合わせスタッフとのコミュニケーションを取るようにしている。	お昼の食事をしながらの「昼礼」時に、意見を気軽に出し合い、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員の能力 資格 経験等に応じた勉強会を月1.2回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員の能力 資格 経験等に応じた勉強会を月1.2回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員の能力 資格 経験等に応じた勉強会を月1.2回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開始前調査に出向き本人の暮らしぶりや家族との関係や困りごとなどの聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	開始前調査に出向き本人の暮らしぶりや家族との関係や困りごとなどの聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	開始前調査に出向き本人の暮らしぶりや家族との関係や困りごとなどの聞き取りを行いサービスを計画し提示するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を大切にしたいケアプランを立て実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	残存機能を大切にしたいケアプランを立て実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に働き了解を得ながらいろいろな方が面会にお越しいただけるようにしている。	家族の協力を得ながら、なじみの人・地域との関係継続に努めている。本人が出かけていくことは少なく、来てもらうほうが多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	残存機能・人の相性を大切に支援するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した場合など今後の生活の場をどうするか 本人 家族の意向に添える様相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	100%は出来ていないが、個人を支援することには努めている。	コミュニケーションの取りづらいつい方も含め、利用者一人ひとりとじっくり話す時間を持つよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	開始前調査に出向き本人のくらしぶりや家族との関係や困りごとなどの聞き取りを行い、入所後も個人の動向からの聞き出しもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	開始前調査に出向き本人のくらしぶりや家族との関係や困りごとなどの聞き取りを行い、入所後も個人の動向からの聞き出しもしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の暮らしぶりや家族との関係や困りごとなどの聞き取りを行い、サービスを計画し提示するようにしている。	日本医療企画発行の「グループホーム計画書の作り方」シートに、現在切り替え中である。アセスメントから計画、実践、評価と経過が見えるシートにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日報に記録し個々の状況を把握し計画の作成や見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の暮らしぶりや家族との関係や困りごとなどの聞き取りを行い、サービスを計画し提示するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内の敷地内で手紙の出し入れや残飯出し・ゴミだし等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	しているがほとんどの方が近くの協力医療機関になっているHPに変更される。	従来からのかかりつけ医は少なく、ほとんどが近くにある同一法人内の病院に変更されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な時に連絡すれば来ていただける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必ず連絡はとりつけ情報の共有はしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力できるシステムは充分ある。	契約時に重度化の話をしている。同一法人内に病院や特養もあり、グループホームで終末期まで希望する家族は現在のところない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々のケースで必要であると判断する際から、かわりを持っていただける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練の実施や教育もしている。	災害福祉広域支援ネットワーク「サンダバード」に所属しており、東北の地震に対しても人的サポートをする等、防災に対して感度を高くしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を大切にすることもし、理念としている。	事業所として、利用者各人に合った言葉掛けと、その人が恥ずかしく思うことは絶対にしないことを確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々を大切にすることもし、理念としている。また家族との間では代弁機能も果たす場合もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ここを大切にすることという理念としながら日々の記録や言動をつかむようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整髪 洗顔を行い衣類なども声掛けし一緒に選ぶなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の買い出しに同行していただき店頭に並んでいるものから選ぶなどしている。	一日毎の食材の買出しから食事の準備も出来る人が手伝っているし、冷蔵庫にあるものを見て献立を利用者と一緒に考える等、利用者と職員が一緒に食事を楽しむ環境を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の管理栄養士やNSに相談したりしている。定期的な運動など行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に対応 歯科にも相談しケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っているがどうしても難しい方に対しては必ず家族と相談し本人の同意も得ている。	一人ひとりの排泄パターンを知っており、トイレでの排泄に向けてのきめ細かい支援を行っている。居室にポータブルを置いている利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	併設の管理栄養士やNSに相談したりしている。定期の運動など行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日を通して入浴していただき心身共にリラックス出来るよう支援している。	毎日いつでも入れるように準備しており、職員と1対1で気持ちよく入れる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間など共用部分は薄明かりにしますが、自室は昼夜自由に行き来出来ますし、入所して日にちが立っていない方などは、眠くなるまでスタッフが対応します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの状況を把握し常に変化に対応出来るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて把握し、ある程度細かな支援に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設群の散歩をしたり買い物にいたりなどの支援を行っている。	広い法人敷地内の散歩だけでなく、同法人敷地内にある交流センターの温泉やカラオケにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行っている。GHでの金銭管理は行っていません。ただし、本人がどの程度もっているかや、いくら使ったかなどは家族が情報提供していただけたところは、やり取りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については自由にかけて頂いているが手紙のやりとりはなかなか出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共有スペースにてテレビ ソファを置き快適に過ごせるよう工夫している。	テレビの前にはゆったりとしたソファがあり、窓の外には朝顔の緑のカーテンがある。ゆっくりと時間を過ごせる居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで和気あいあいと過ごせるようソファを置いたりクッションを置いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人馴染みの物を置きプライベート空間を大切にしている。	各居室内に洗面所が設置されており、歯磨き等居室で出来るようになっている。室内調度品や壁飾りも各人好みに合わせて工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前がトイレであるとか手すりがあるとか ある程度は整っている。		